

## 金沢市障害者スポーツ振興 (障害者スポーツの支援者と理解者を増やすために)

指導教員 北陸学院大学 人間総合学部 教授 田引俊和  
参加学生 大橋 萌・紺井彩里奈・佐藤いのり・西田 桜

指導教員 金沢星稜大学 人間科学部 教授 井上明浩  
参加学生 石田直也・上端克尚・岡山楓汰・坂江亮太・宮下尚弥・宮下祐希・柳田光風・若宮勇作・  
佐々木堅進・島田佑汰・田中大輝・塚本莉紗

### 1. 活動の成果要約

地域の障害者スポーツ振興に関して大きく2つの取り組みを行なった。就学前の障害がある子どものスポーツでは、継続した活動により効果がみられた。保護者や施設職員等に対しても今後の展開や、子どもの可能性を示せたと考える。

また、「金沢マラソン2018」で初めてゴールエリアに障害ランナー用の多目的スペースを設置した。当初予想よりも高稼働で、ほぼ全員に配布したアンケート(回収は郵送法)では概ね高い評価を得た。

### 2. 活動の目的

メインテーマである「障害者スポーツの支援者と理解者を増やすために」の推進のために、以下の2つの取り組みを行った。

#### (1)見落とされがちな就学前の障害のある子どものスポーツニーズの調査

スポーツ実践を継続的に実施し子どもへの直接的な効果とともに、比較的若い世代にある保護者のニーズを明らかにし、スポーツ振興への根拠とする。

#### (2)地域スポーツイベントへの障害者の参加に関するニーズ、課題の調査

「金沢マラソン2018」ではゴールエリアに障害ランナー用の多目的スペースを設置・運営し、障害ランナーの実態、ニーズ調査を実施。障害がある人も参加しやすい当地域のスポーツイベントとなるよう環境整備への貢献を目指す。

### 3. 活動の内容

前述の2. 活動の目的に基づき、大きく2つの活動を行なった。内容を以下に示す。

#### (1)就学前の障害のある子どものスポーツニーズの調査

障害のある就学前の子どものスポーツ実践(あそびとスポーツを融合させたもの)を継続的に実施し(図表1,2)、子どもへの直接的な効果とともに、一緒に参加する保護者等にスポーツに関する意向を確認した。2つの大学のゼミの専門分野をもとに子どもの障害特性や発達年齢に合わせた運動能力、獲得課題を検討し有意義な取り組みになるよう工夫した。2018年7月~12月の土曜日に全5回行った。

成果発表の一つとして、連携先である金沢市(スポーツ振興課)が一般市民向けに開催した「2018 パラスポーツを体験しよう!!」イベントの中で活動成果を発表した(図表3)。子ども本人のスポーツ効果に加え、保護者や施設職員等に子どもの可能性をあらためて示せたと考える。併せて、保護者は継続的な実践を望んでおり、同時に、障害がある子どもを対象とする福祉サービス事業所のスタッフも取り組みを評価し、活動を継続することへの期待があることを確認した。

一方、障害があったとしても子どもの成長、課題の修得は予想以上に早く、活動内容の十分な準備が求められた。また、早い時期からの身体活動は効果的ではあるが、その機会は地域社会では十分でないという課題も明らかとなった。



図表 1、2：障害のある子どものスポーツ実践

**2018 パラスポーツを体験しよう!!**

平成30年 **12月1日土**  
13:00~16:00 オープニングイベント13:00  
金沢市総合体育館第1・2・3競技場  
車いすバスケット日本代表選手もやってくる!!

**参加無料**  
障がい者の方も  
一般の方も  
誰でも体験  
できます!

**主な体験種目**

- 卓球バレー
- ポッチャ
- 陸上スラローム
- 車いすバスケットボール
- ツインバスケケットボール
- フライングサッカー
- シッティングバレーボール
- カローリング
- フライングディスクなど

※動きやすい服装、  
内履きシューズで  
参加してください。

**ガラポン抽選会もあるよ!!**

**洋菓子、クッキー、  
ポストカード等の販売もしています!!**  
ジヨウコクパティオーム 青森県社作業者

お問い合わせ) 金沢市スポーツ振興課 ☎076-220-2443 FAX 076-261-0257 e-mail: sports@city.kanazawa.lg.jp

主催：金沢市 ■協賛/公益財団法人金沢市スポーツ事業団  
■後援/金沢市教育委員会、石川県障害者スポーツ協会、  
石川県障がい者スポーツ推進者協議会、スペシャルオリンピックス日本・石川  
■協力/金沢医科大学、北陸学院大学、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、  
(一社)北陸eスポーツ連合

裏面もご覧ください →

図表 3：金沢市パラスポーツイベントチラシ

(2)「金沢マラソン 2018」障害ランナー用多目的スペース設置・運営とニーズ調査

背景（設置理由）：

昨年度の取り組み結果から、金沢マラソンに参加する障害ランナー（一部伴走者含む）からゴール後に専用の更衣スペースの要望が複数あったため、今年度の取り組みとして多目的スペースの設置を試みた（金沢市スポーツ振興課、金沢マラソン 2018 実行委員会との連携による取り組み）。

概要：ゴールエリア内に多目的スペースを設置（図表 4 の手前のテント）。テント内は、小さく分けした更衣用個室と休憩エリアを設け、自由に使えるストレッチ用具も設置した。ゼッケン番号により、専用スペースであることを表示した（図表 5）。



図表 4、5：「金沢マラソン 2018」ゴールエリア内に設置した多目的スペーステント

また、多目的スペース、および金沢マラソン全体の評価を得るために、障害ランナー（一部伴走者）にアンケート調査を実施した。調査票は、前日、前々日の金沢駅での受付会場で、直接障害ランナーと伴走者に調査趣旨を説明し、了解を得たうえで配布した（図表6、7）。

なお、調査票配布に際しては事前に大会実行委員会に内容を示し了解を得た。また、回答はすべて無記名とし、結果は統計的に処理され個人が特定されない旨調査票上に記した。



図表6、7：金沢マラソン2018受付会場での障害ランナーへの調査

調査結果（回答者の属性）：

今大会の全ランナーは約1万3千人で、そのうち障害ランナーの受付は105人、伴走者は13人で、実際に配布したのは107人、回答・記入はレース後とし、郵送法で回収した（回収52、回収率48.6%）。金沢マラソンには、障害種別、年齢、地域に関係なく、幅広く障害ランナーが参加している（図表8）。

図表8：回答者の属性

障害種別		年齢		居住地	
聴覚言語	20人	20代	6人	石川県内	20人
内部障害	8	30代	12	関東甲信越	13
知的障害	8	40代	10	東海北陸	6
肢体不自由	4	50代	13	近畿	9
視覚障害	3	60代	6	中国四国	1
精神障害	3	70代	2		
伴走者・その他	3				

調査結果（多目的スペースの評価）：

多目的スペースを利用した障害ランナー（伴走者含む）の評価は、5段階評価で4.41と高かった。  
どの障害（肢体不自由、聴覚言語、視覚、内部、知的）であっても高い傾向がみられた（ただし、サンプル数が少なく有意差を示すまでにはならない）。また、自由記述では次の評価があった（図表9）。

図表 9：自由記述コメントの内容

- ・ 今回の多目的スペース（ゴール地点）はすごくありがたかった。
- ・ とても助かりました。
- ・ ゴール地点の多目的スペースは大変ありがたかった。申し訳ないぐらいありがたい。
- ・ 着替えに時間がかかるので多目的スペースは本当にありがたかったです。
- ・ 多目的スペースを利用したが、イスがあり、誘導もしていただき手厚い対応で感激しました。申し訳ないぐらいです。
- ・ フルマラソンは2回目ですが、障害に対する配慮があったのでよかったと思います。特に多目的スペースは助かりました。

#### 4. 活動の成果

今年度の成果について、2つの取り組みに基づいて以下に示す。まず、障害のある就学前の子どものスポーツ実践に関しては、申請時に成果目標として掲げた「障害のある子どもと、ない子どもが一緒に参加するスポーツの機会を設け、延べ50人以上の参加を目指す。」は達成できたものとする。加えて、障害があったとしても子どもの成長、課題の修得は予想以上で、継続的なスポーツの意義と、可能性をあらためて実感することができた。

また、金沢マラソンに関しては、当初目標の「金沢マラソン2018に参加する障害ランナー（伴走者含め約100名）に対するアンケート調査を行なう。多目的スペース（仮称）も含め、今後の大会運営向上に貢献する活動を行なう。」をほぼ遂行できたとする。昨年の取り組みに基づき試行した多目的スペースではあったが、概ね高い評価を得た。また、この取り組みは金沢市スポーツ振興課、および大会実行委員会との連携により実現している。本テーマに対する大学と地域連携の一つの形となったとする。

一方、多目的スペースの利用希望が多く、待ち、あるいは混雑で利用できないという場面があった。さらに、コース上にある給水・給食ステーションが一部障害ランナーには利用しにくい状況であったということもアンケートの回答から明らかとなった。今回の取り組み結果に基づき、今後の対応を考えていく必要がある。

なお、「金沢マラソン2018」に関する取り組みは、「第28回日本障がい者スポーツ学会」において両大学の学生が成果を発表した（図表10）。



図表 10：学会での成果発表のようす

#### 5. 次年度の計画

本年度の取り組み結果をふまえ、実践を継続するとともに、連携先である金沢市スポーツ振興課、および金沢マラソン大会実行委員会とともに当地域の障害者スポーツの普及・振興に取り組んでいく。また、2020年の東京大会を意識しつつ、障害児・者のスポーツをふくめた当地域における「レガシー」のあり方を検討していく。

#### 6. 活動に対する地域からの評価

今年度取り組みにおいてうまく連携できたという評価を得ている。また、前述のとおり、取り組み対象である障害児者、保護者、関係者からは一定の評価を得ることができた。